

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 東京都教育委員会
 所在地 東京都新宿区西新宿2-8-1
 代表者職氏名 教育長 中井 敬三

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	とうきょうとりつあすかこうとうがっこう	ふりがな	おかだ まさはる
学校名	東京都立飛鳥高等学校	校長名	岡田 正治
ふりがな	あらかわくりつだいしちちゅうがっこう	ふりがな	おうみ さだゆき
学校名	荒川区立第七中学校	校長名	近江 貞之
ふりがな	あらかわくりつおぐだいろくしょうがっこう	ふりがな	いしつか よしゆき
学校名	荒川区立尾久第六小学校	校長名	石塚 吉之

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小学校における低・中学年での活動型授業と高学年での教科型授業を効果的に行うための教育課程の改善を踏まえた中学校・高等学校との円滑な接続及び英語教育の目標・内容の高度化や、指導及び評価の改善

(2) 研究の概要

荒川区において平成15年度より進めてきた小学校1年生からの英語教育の成果と課題を踏まえ、小・中・高等学校で接続した指導の在り方や、児童・生徒の学習意欲の向上、そして日常の英語授業における教員の指導力向上について研究を進める。小・中・高等学校における研究組織での指導内容検討、実践を通して、文部科学省及び都教育委員会から最新の情報と指導を受けることによって、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化を図るための教育課程の編成や指導方法の在り方を明らかにする。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

荒川区では平成15年に荒川区小学校英語科指導指針を策定し、小学校1年生からの英語学習を通して、児童が身近な英語を聞いて理解し、自己表現できる基礎的な話す力を養い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、言葉や文化に対する興味・関心を深めることを目標として実践を行ってきた。

その成果として、荒川区の小学校における英語教育に対する理解は、教員、保護者、児童の間で確実に深化し、児童の力は定着してきている。実施している小学校英語実技研修により指導方法、指導技術、教材作成、外国人指導員の活用等について改善が図られている。

このことを基に、本区では平成27年度より、小・中・高等学校の接続期の指導の在り方を検討し、中・高等学校における英語教育の高度化について、英語教育検討委員会の中でその方向性を明確化し、内容を検討していく。

②研究仮説

本区が蓄積してきた小学校1年生からの英語教育の年間指導計画、学習指導案、指導方法や指導教材、英語教室の環境等を整理し、英語教育の早期化・教科化や授業時数増に対応した指針やカリキュラム、そして中学校、高等学校も含めた各校種の連携と接続の在り方を明確化する。このことにより小・中・高等学校の円滑な接続、中・高等学校における英語教育の高度化（目標、内容）を図るための教育課程の編成や指導方法の改善を実現する。

③研究成果の評価方法

ア 児童・生徒の英語に係る意欲・態度、技能等

- ・学力調査の分析（中・高等学校）
- ・各種経年評価（小・中・高等学校）
- ・パフォーマンス評価（観察評価を含む）（小・中・高等学校）

イ 指導計画、指導方法・内容、教材等

- ・目的に応じた独自教材及びカリキュラムの作成内容の評価・分析（運営指導委員会）
- ・研究授業、授業観察による評価・分析

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	(H26)	第一年次 (H27)	第二年次 (H28)	第三年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第1～4学年 1コマ	第1～4学年 1コマ	第1～4学年 1コマ
②小学校 教科型	第 学年 コマ	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 2コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第三年次、校種別

<第一年次> (平成27年度)

○小 学 校

①研究事項

荒川区英語科教育研究員の発足による小学校英語教育指導指針改訂及び学習活動や指導方法の研究開発

②使用する教材及び開発する教材

- ・「Hi, friends!」、文部科学省が作成した補助教材の活用
- ・区独自の教材等の活用

③実践内容の概要

小学校高学年における教科型授業の実施及び中・高等学校との連携を踏まえ、研究授業等を通して平成15年度に荒川区が策定した小学校英語科指導指針を見直し、各発達段階に応じた学習活動と指導方法を研究開発する。

○中 学 校

①研究事項

小学校英語科指導指針を踏まえた学習到達目標の設定、指導計画・指導内容等の検討及び評価計画の改善

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書及び補助教材の活用
- ・独自教材の開発

③実践内容の概要

小・中・高等学校を通じた学習到達目標（CAN-DO リスト等）の検討及び研究授業、生徒の英語力の結果分析等を通して、指導計画・指導内容、評価計画・評価方法の見直しと改善を図る。特に、4技能を統合的に活用できる力の育成と適正な評価方法について検討する。

○高 等 学 校

①研究事項

中・高等学校の円滑な接続及び内容の高度化に向けた実施計画の作成

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書及び補助教材の活用
- ・独自教材の開発・活用

③実践内容の概要

小・中・高等学校を通じた学習到達目標（CAN-DO リスト等）の検討及び研究授業、生徒の英語力の結果分析等を通して、指導計画・指導内容、評価計画・評価方法の見直しと改善を図る。特に、4技能を統合的に活用できる力の育成と適正な評価方法について検討する。

<第二年次>（平成28年度）

○小 学 校

①研究事項

高学年における週2時間の教科型授業の実践内容の検討、小学校英語科指導指針の検討

②使用する教材及び開発する教材

- ・「HI, friends!」、文部科学省が作成した補助教材の活用
- ・区独自の教材等の活用

- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容

高学年における教科型授業の実践を通して、活動型授業からの円滑な移行、「聞くこと」「話すこと」に「読むこと」「書くこと」を加えた指導計画・指導内容の改善及び小学校英語科指導指針について検討する。

○中 学 校

①研究事項

授業を英語で行う実践事例の集約及び小学校高学年における教科型授業からの接続を踏まえた4技能を統合的に活用する力の評価方法等の検討

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書及び補助教材の活用
- ・区独自の教材等の活用
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容

授業見学等を通して、授業を英語で行う実践事例の情報を収集するとともに、小学校での学習内容を踏まえた効果的な評価方法（パフォーマンス評価を含む4技能を測る評価）を研究開発する。

○高 等 学 校

①研究事項

小学校における活動型・教科型授業及び中学校での英語学習を踏まえた指導計画・指導内容、評価計画の検討、モジュール学習の導入の検討

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書及び補助教材の活用
- ・学校独自の教材の開発・活用
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践事項

発表・討論・交渉等の高度な言語活動の実践事例について研究を行うとともに、モジュール学習の指導計画・形態・プログラム内容と評価検証について検討する。

<第三年次>（平成29年度）

○小 学 校

①研究事項

小学校で週2時間の教科型授業の実施と検証（指導計画、指導内容、評価等）、小学校英語科指導指針改定版の作成

②使用する教材及び開発する教材

- ・「Hi, friends!」や文部科学省が作成した補助教材の活用
- ・区独自の教材等の活用
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容

研究授業等を通じた指導計画、指導内容、評価等の検証及び改善に向けた検討を行うとともに

に、小学校英語科指導指針内容を検討し、改訂を行う。

○中 学 校

①研究事項

互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動の実践事例の作成と授業における検証、小学校における教科型授業を踏まえた中学校での英語力評価についての検討

②使用する教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書及び補助教材の活用
- ・ 区独自の教材等の活用
- ・ 日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容

4技能を総合的に指導する授業実践を通して、考えや気持ちを伝える言語活動の指導方法・内容の工夫を行い、効果を検証するとともに、パフォーマンス評価を含む評価方法について検討する。

○高 等 学 校

①研究事項

小・中学校における英語学習を踏まえたパフォーマンス評価の活用等、4技能の総合的な評価方法の作成

②使用する教材及び開発する教材

- ・ 検定教科書及び補助教材の活用
- ・ 学校独自の教材の活用
- ・ 日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容

高度な言語活動（発表、討論、交渉等）を行わせるための指導計画、学習到達目標の検討と、研究授業等を通じた指導と評価の改善を検討する。

○平成27年度の進捗状況・課題

【小学校】 <「荒川区小学校英語科指導指針」の改訂>

- ・ 平成27年度から28年度にかけて「荒川区小学校英語科指導指針」の改訂を行う。そのため、当初計画していた「荒川区英語科教育研究員」については、この指針改訂作業を進めるためのメンバーとし、「『荒川区小学校英語科指導指針』改訂作業部会」として改訂に向け、指針内容の検討を進めている。
- ・ 改訂「荒川区小学校英語科指導指針」（以下、改訂指導指針）は、これからの英語教育の動向に合わせ、各学年の目標を4技能についてCAN-DO形式により設定することを目指して目標の設定作業を進めている。平成28年度には、設定した目標を具現化するための指導内容等についての検討を行う予定である。

<学習活動や指導方法の研究開発>

- ・ 小中の円滑な接続に向けた小学校での重点指導の一つとして、高学年におけるフォニックスの導入を始めている。フォニックスの導入により、6年生になる

と、文字と音がつながるようになり、3文字程度の英単語は音を頼りに表記することができるようになっている。

- ・45分の授業の流れをパターン化して授業を展開することにより、児童・教師ともに見通しをもって学習に取り組むことができている。
- ・学習内容の定着を図るため、同じテーマについて複数の学年で扱っている。同じテーマを扱う単元でも、学年が上がるにつれて使う単語や表現を広げるなどすることにより、児童は意欲をもって学習に取り組むことができている。
- ・英語教室に設置している電子黒板の活用を進めた。デジタル化された教材を活用することにより、児童の活動への意欲を引き出ししており、教員の指導レベルを問わないツールとして活用も進んでいる。
- ・平成26年度に全校導入したタブレットPCの活用を含めたICT機器を活用した学習活動や指導方法についての検討も進めていく必要がある。

【中学校】

- ・学習到達目標については、各学年の具体的な目標として絞り込んだ。この目標項目を全学年を見通すことができるような形で整理を進めているところである。
- ・電子黒板を活用して、学校行事等、生徒の実生活を学習の素材として取り入れた自作教材を使った授業を行うなど、生徒の実態に合わせたICT機器を活用した指導実践等を通して、生徒の授業理解につなげる効果的な指導計画・内容等についての検討、実践を行った。
- ・9月の荒川区教育研究会中学校外国語部会において、同会小学校英語部会と合同の研修を実施、小学校の指導案を基に、指導方法についての意見交換を行った。
- ・4技能を統合的に活用する学習活動や評価方法の在り方については今後検討を進めていく。

【高等学校】

- ・教師が作ったベースとなる台本に生徒がストーリーを加えて発表するスキット・コンテスト（1年）等、英語劇による校内コンテストを実施した。
- ・中高の円滑な接続の在り方についての検討に向け、拠点校（中学校）3年生の授業視察を行った。意見交流も行い、中高接続期における中学校3年生における生徒の実態と指導の現状について共有を図った。
- ・必修となっている「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」についての具体的な目標設定はできている。今後、中高の教員間における英語指導についての情報共有を図り、中高の接続を見据えつつ、単位制高校という拠点校の特長を生かしながら、高等学校段階におけるCAN—DO形式による学習到達目標の設定について具現化を進めていく。

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第三年次、校種別

<第一年次>平成27年度

- 小学校・・異校種の授業観察による授業評価、分析（7月・10月・12月）
パフォーマンス、観察等による評価（各学期末：第1学年から第6学年。ただし第1学年から第4学年は文章表記による。）
- 中学校・・異校種の授業観察による授業評価、分析（7月・10月・12月）
学力調査の分析（9月：2・3年）
パフォーマンス評価（1月：2年）
- 高等学校・・学力調査の分析（9月・12月：全学年）

<第二年次>平成28年度

- 小学校・・異校種の授業観察による授業評価、分析（7月・10月・12月）
パフォーマンス、観察等による評価（各学期末：第1学年から第6学年。ただし第1学年から第4学年は文章表記による。）
- 中学校・・異校種の授業観察による授業評価、分析（7月・10月・12月）
学力調査の分析（9月：2・3年）
パフォーマンス評価（1月：2年）
- 高等学校・・学力調査の分析（9月・1月：全学年）
パフォーマンス評価（2月：全学年）

<第三年次>平成29年度

- 小学校・・異校種の授業観察による授業評価、分析（7月・10月・12月）
パフォーマンス、観察等による評価（各学期末：第1学年から第6学年。ただし第1学年から第4学年は文章表記による。）
教員に対する学習指導に関するアンケート調査の実施（6月）
- 中学校・・学力調査の分析（9月：2・3年）
教員に対する学習指導に関するアンケート調査の実施（6月）
パフォーマンス評価（1月：2年）
- 高等学校・・学力調査の分析（9月・1月：全学年）、パフォーマンス評価（2月：全学年）

○平成27年度の進捗状況・課題

- 【小学校】・単元においては、「荒川区小学校英語科指導指針」を基に評価規準を設定し、パフォーマンスや観察による評価に活用している。
 - ・振り返りカードを作成し、活用している。このカードを書くことにより、児童はその日の授業における自分の学びを確認している。また、教師もこのカードから児童の授業への意欲や指導における課題を見取り、授業改善につなげることができた。
 - ・中学校の授業観察は行うことができたが、授業評価や分析などの小中接続の接続についての検討には至らなかった。授業観察、授業の評価や分析など、小中高で情報を共有する場を設定していく必要がある。

【中学校】・荒川区「学力向上のための調査」（東京書籍の標準型学力調査、6月実施）の結果分析を行った。

＜学年分析＞

2年生：単語や文法事項についての正答率は、全国平均より低い。

（単語：－7.6％、文法：－6.5％、文構造：－8.9％）

リスニングに関する内容については他領域に比べて平均正答率が高い。

（キーワードの聞き取り：－2.4％、文脈の聞き取り：－3.5％）

3年生：ほぼ全領域において全国平均正答率を上回った。

リスニングに関する内容についての平均正答率が高い。

（キーワードの聞き取り：＋0.2％、文脈の聞き取り：＋0.9％）

語彙や英作文についても全国平均正答率を上回った。

（語彙：＋2.7％、英作文：＋2.4％）

文法、長文読解に関する内容項目については全国平均正答率を下回った。（文法：－1.1％、長文読解：－1.8％）

→小学校からの英語学習の積み重ねにより、「聞く」力が育ってきている。

→話したり書いたりして英語を使うために必要な単語、文法事項など、基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題がある。

＜経年分析＞

2年生：1年生時に比べて、リスニング（キーワードの聞き取り）については＋1.4％、英作文については＋3.0％、問題解決（英文の情報や条件等を基に正解を判断する）については＋5.5％と平均正答率が伸びた。

3年生：どの技能においてもほぼ全国平均正答率を上回ったが、特に語彙、文構造、英作文に係る項目は2年生時より伸びている。

（語彙：＋6.1％、文構造：＋8.1％、英作文：＋4.0％、

キーワードの聞き取り：＋5.4％、問題解決：＋11.3％）

観点別：「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語理解の能力」については前学年時より上昇している。

→小学校からの英語学習の積み重ねにより、「聞く」力が育ってきている。

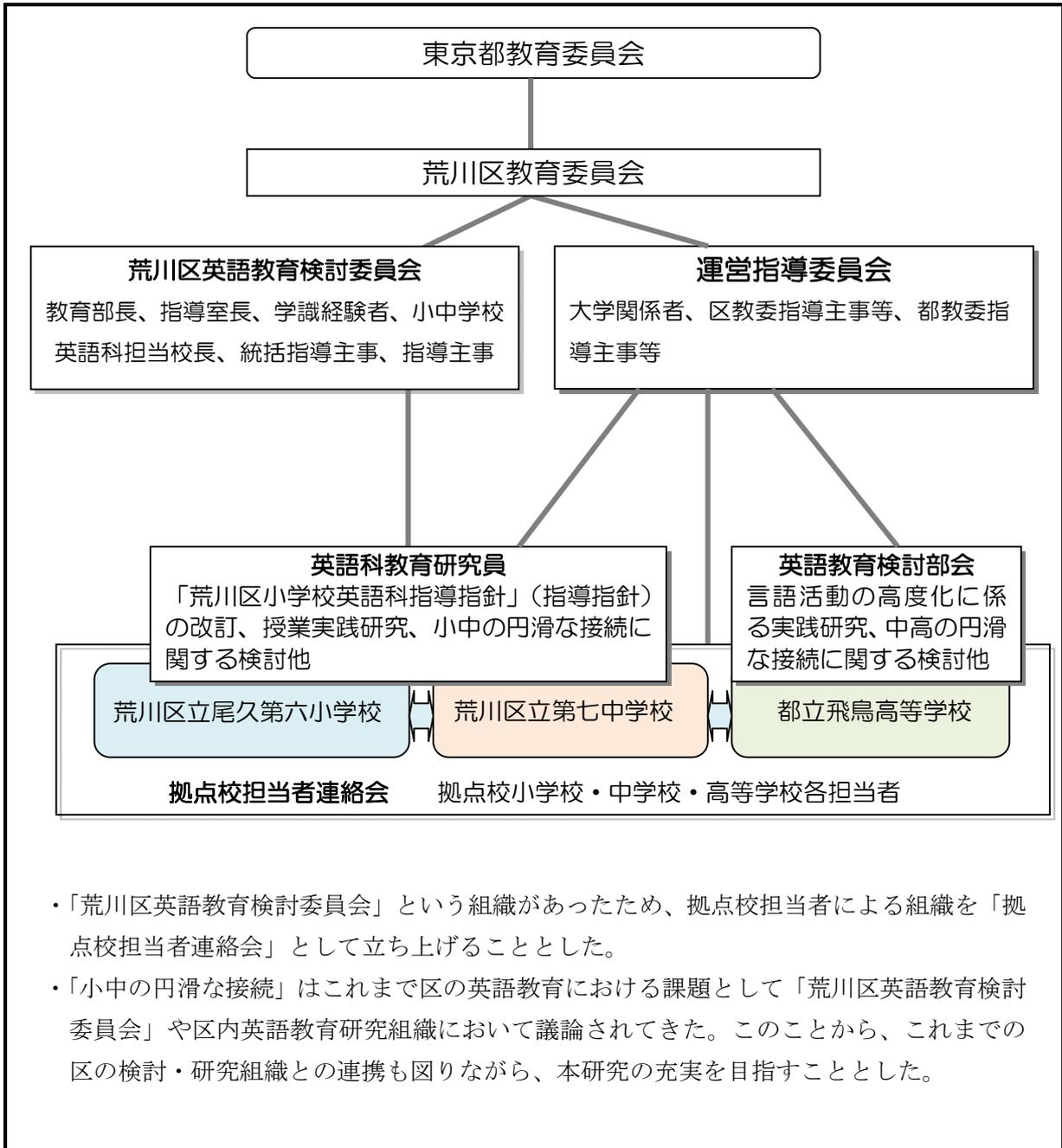
→経年的には、学年進行により基礎的・基本的な知識・技能の習得は進んでいる。さらに、習得した知識・技能等を定着させ、活用につなげていくことが必要である。

・経年的に比較をするために、平成28年2月に拠点校の全1・2年生を対象にGTEC for students(Core)を実施する予定である。

【高等学校】・全1・2年生を対象に、GTEC for students(Basic)を平成27年12月に実施した。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

- 年間を通して、小・中・高等学校それぞれにおいて分科会やプロジェクトチームを編成し、進行していく。その中で、全体会を年2回実施し、適宜、進捗状況の確認と小・中・高等学校の円滑な接続及び中学校、高等学校における内容の高度化について確認を行っていく。同時に、文部科学省から講師を招き、研修会を実施することにより、国の最新の動向を見逃さず、かつ英語教育強化地域拠点事業としての進行に関する評価を得る。
- 英語教育強化地域拠点事業として先行実施している地域への視察を行い、強化地域としての在り方を確認するとともに、先行事例を積極的に活用していく。
- 運営指導委員会は、英語教育強化地域拠点事業としての趣旨を踏まえた上で、積極的に学校で

の授業視察を行い、趣旨に沿った指導・助言を行っていく。

○学級担任や外国語担当教員、及び担当教員等を補助するための外部人材に対しては、今まで荒川区において蓄積してきた研修方法・内容を基本としつつ、本事業の趣旨、これからの英語教育の方向性を考慮したものに充実させていく。

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・それぞれの拠点校においては、部会やプロジェクトチームを中心とした研究実践を進めてきた。取組状況については、教育委員会の担当指導主事が学校を訪問し、授業観察や進捗状況の確認などを行ってきたが、拠点校の取組による成果と課題を共有する場の設定がまだできていない。次年度の取組の見通しをもつためにも、2月上旬を目途に「拠点校担当者連絡会」を設定し、情報共有を図る予定である。
- ・運営指導委員会については、第1回を6月に開催し、本事業における荒川区の取組の方向性、これまでの荒川区における英語教育についての意見交換を行った。なお、この回のみについては、本事業の取組について区内小中学校にも周知するため、荒川区英語教育検討委員会と共催とした。第2回については、2月末から3月上旬を予定しており、今年度の取組について報告する。
- ・他地域の取組を学び、今後の取組の参考とするため、先行して本事業に取り組んでいる京都教育大学附属桃山小学校、附属桃山中学校、附属高等学校の研究発表（2月）に研究校担当者として区教委担当者が参加する予定である。
- ・学級担任や外国語担当教員、及び担当教員等を補助するための外部人材（英語教育アドバイザー）に対しては、現在の英語教育の課題やこれからの英語教育の方向性を踏まえた研修を設定、実施した。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨、方向性、年間の予定に関する確認 ・英語教育アドバイザー研修会の実施（第1回） 講師：前・荒川区立小学校長、担当指導主事 ・小学校英語教育研修の実施（新転任者対象） 講師：荒川区英語教育アドバイザー ・小中交流会における異校種の授業参観 ・都立飛鳥高校英語教育検討部会発足 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川区「学力向上を図るための調査」実施 ・小学校英語教育実技研修（新転任者対象・第1回）の実施 ・小学校英語教育担当者研修の実施 講師：玉川大学教職大学院教授 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・荒川区立中学校の学力調査分析 ・小学校英語教育実技研修（新転任者対象・第2・3回）の 	第1回運営指導委員会

	<p>実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語教育アドバイザー研修会（第2回）の実施 講師：玉川大学准教授 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育夏季集中研修会 対象：小学校全教員・中学校英語科教員（希望者） 講師：聖学院大学准教授 聖学院大学特任講師 荒川区英語教育アドバイザー 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 各校種別の進捗状況と方向性の確認 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 荒川区英語科教育研究員（「荒川区小学校英語科指導指針」改訂作業部会）の発足と第1回部会の実施 →これまでの荒川区における英語教育についての成果と課題についての整理 小学校英語教育実技研修（新転任者対象・第4回）の実施 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 中学校における実践授業及び検討会 →荒川区教育研究会中学校外国語科部授業研究 →都立飛鳥高等学校英語科教員による授業参観、中学校教員との意見交換等 授業者：荒川区立第七中学校主幹教諭 講師：東洋学園大学教授 小中拠点校への視察受け入れ（大分県宇佐市教育委員会） 小学校英語教育担当者、中学校英語科教員、英語教育アドバイザーの合同研修会 テーマ：「小学校・中学校での英語教育を通じて育成されるべきコミュニケーション力とは」（演習・講義） 講師：和光大学准教授 小学校英語教育実技研修（新転任者対象・第5回）の実施 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> 「荒川区小学校英語科指導指針」改訂作業部会（第2回）の実施 →「荒川区小学校英語科指導指針」改訂に向けたフレームワークについての検討 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> 校長研修会の実施 テーマ「これからの英語教育～小中高の円滑な接続と内容の高度化～」 講師 文部科学省初等中等教育局国際教育課 外国語教育推進室室長 各拠点校における進捗状況の確認 	

1月	<ul style="list-style-type: none"> ・「荒川区小学校英語科指導指針」改訂作業部会（第3回）の実施 →荒川区小学校英語科の目標と各学年の目標の検討 ・高等学校における学力調査分析 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・「荒川区小学校英語科指導指針」改訂作業部会（第4回）の実施 →各学年の目標の検討 ・英語教育強化地域拠点事業実施校への視察 →京都教育大学附属桃山小学校・附属桃山中学校・附属高等学校 ・英語教育アドバイザー研修会（第4回）の実施 ・小中交流会における異校種の授業参観 ・小中及び中高の円滑な接続に関する検討（拠点校担当者連絡会） 	第2回運営指導委員会
3月	<p><全体会の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の活動のまとめと公表する年間計画や教材等の確認 	
【その他の取組】※あれば記入		

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 東京都教育委員会
 所 在 地 東京都新宿区西新宿2-8-1
 代 表 者 職 氏 名 教育長 中井 敬三

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	とうきょうとりつじょうすいこうとうがっこう	ふりがな	しもだ よしあき
学校名	東京都立上水高等学校	校長名	下田 賢明
ふりがな	むさしむらやましりつだいさんちゅうがっこう	ふりがな	くりはら いちろう
学校名	武蔵村山市立第三中学校	校長名	栗原 伊知郎
ふりがな	むさしむらやましりつだいさんしょうがっこう	ふりがな	まえかわ じゅん
学校名	武蔵村山市立第三小学校	校長名	前川 潤
ふりがな	むさしむらやましりつらいづかしょうがっこう	ふりがな	いうち きよし
学校名	武蔵村山市立雷塚小学校	校長名	井内 潔

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を目指し、小学校中学年の活動型授業及び高学年の教科型授業での実践研究を行い、小・中・高等学校を通じた一貫した指標に基づく教育課程や指導方法・教材、評価方法を研究開発する。

(2) 研究の概要

外国語活動を小学校中学年で行うことにより、英語の音声に慣れ親しませながら、コミュニケーションの素地を養うとともに、小学校高学年においては4技能を使う態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことを目指し、英語を教科に位置付けた教育課程を編成する。また、小学校における英語教育の早期化を踏まえた中・高等学校における学習到達目標、指導方法、評価の改善を行うなど、小・中・高等学校の連携による円滑な英語教育の移行を図る。

具体的には、小学校中学年における活動型授業、高学年における教科型授業の教育課程を編成・実施するほか、小・中・高等学校を通じた段階的、継続的、系統的な指導の在り方について調査

研究等を行い、各段階の学習到達目標を CAN-DO リストの形式で設定するとともに、指導方法、教材及び評価方法を開発する。

また、これらの学習の成果を、各発達段階に応じて児童・生徒による自己評価、校内評価、児童・保護者対象アンケート調査（コミュニケーションへの態度、言語・文化に関する意識調査）、自作の知識理解調査、英語検定 Jr（6 学年）、児童・生徒の学力向上を図るための調査、パフォーマンス評価等の結果により検証し、指導方法の工夫・改善を図っていく。

（3）現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

ア 現状

東京都が実施した「平成 26 年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果では、外国人とコミュニケーションをとりたいという意欲をもつ小学生の割合が 8 割を超えている一方で、中学生が外国人とコミュニケーションをとる機会は少なく、外国人とのコミュニケーションへの意欲は 3 割強であるという結果が出ている。

武蔵村山市は、都内の区市町村の中で唯一、JET プログラムによる外国青年（英語等指導助手、以下「JET」という。）を招致し、市内各中学校及び小学校への出前授業など、児童・生徒の英語力向上と異文化理解の深化を図っている。

また、東京都教育委員会が作成した小学校外国語活動の指導資料や東京方式少人数・習熟度別指導ガイドライン《中学校 英語》、全校に配置されている英語活動支援員の活用等により、授業改善を図っている。

しかしながら、小学校外国語活動における指導内容や指導時数が十分とはいえ、前述の調査では、中学生の英語の得点が平均点に満たない現状がある。域内高等学校においては、文法指導や英文和訳を中心とした教師主導型の授業が行われており、中学校との連携を通じた授業改善を始めとする生徒の英語によるコミュニケーション能力育成に向けた一層の取組が求められる。

イ 研究の目的

- (1) 小学校中学年における外国語活動の実施（英語教育開始学年の早期化）及び小学校高学年における英語教科化を円滑に進めるための教育課程を編成する。
- (2) 小・中・高等学校を通じた段階的、継続的、系統的な指導を踏まえた学習到達目標を設定することにより指導方法及び評価方法を検討し、児童の英語によるコミュニケーション能力の素地を育成し、生徒のコミュニケーション能力向上を図るとともに、中・高等学校における学習目標及び学習内容（言語活動等）の高度化や英語力の着実な定着を図るための指導・評価の改善を行う。

②研究仮説

ア 教育課程の編成

小学校中学年に外国語活動型授業、高学年に教科型授業を設置する教育課程を編成し、経年で授業時数を漸増することにより、児童が言語や文化についての理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付け、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるとともに、中・高等学校での英語学習の基礎を身に付けることができる。

また、小・中・高等学校を通じて段階的・継続的な学習到達目標・内容を研究開発するこ

とにより、小学校中学年から英語に慣れ親しんだ児童が、中・高等学校で4技能を統合的に活用できる力を向上させ、高校卒業時に英語による高度な言語活動が行うことができるようになる。

イ 指導方法の工夫・教材の開発

小学校においては、JETや市内全校に配置された外国語活動支援員と連携し、毎時間の体験的な活動を重視した授業内容を確立し、小学校高学年の発達の段階に応じた教授法を確立することにより、小学校段階で基本的な表現により「聞く」「話す」ことや、積極的に「読む」「書く」ことへの態度を育成することができる。特に、小学校段階においては「聞く」「話す」技能に重点を置いた教材開発に取り組む。

中・高等学校においては、小学校段階で身に付けることが想定される態度や能力に基づき、4技能を統合的に活用できる言語活動を積極的に取り入れた指導方法と、その指導方法に効果的な教材を開発することにより、文法訳読に偏ることなく互いの考えや気持ちを英語で伝えることができるコミュニケーション能力（中学校）と、幅広い話題について発表・討論・交渉などができるコミュニケーション能力（高等学校）を向上させる。

ウ 評価方法の研究開発

「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、各校種・学年に応じた技能に係る一貫した指標を、CAN-DO リストの形式で作成し、各学年での学習目標の達成度を測る。

また、児童・生徒による自己評価のほか、知識に関わる理解度を調査する方法を独自に開発し、各段階の到達目標を客観的に判断できるようにする。さらに、保護者等にアンケートを行うことで、授業内容に関わる改善のポイントを明確にしながらい指導方法の開発に取り組む。

③研究成果の評価方法

ア 児童・生徒のコミュニケーション能力等について

児童・生徒による自己評価、校内評価、児童・保護者対象アンケート調査（コミュニケーションへの態度、言語・文化に関する意識調査）、独自の知識理解調査、英語検定 Jr（6学年）、児童・生徒の学力向上を図るための調査、パフォーマンス評価等

イ 指導方法・教材・評価計画について

英語教育強化研究推進委員会及び運営指導委員会による授業観察評価、内容分析、成果検証等

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	(H26)	第一年次 (H27)	第二年次 (H28)	第三年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第3、4、5学年 1コマ	第3、4学年 1コマ	第3、4学年 1コマ
②小学校 教科型	第 学年 コマ	第6学年 1.5コマ	第5、6学年 2コマ	第5、6学年 2コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第三年次、校種別

1. 小学校

(1) 第一年次 (H27年度)

①研究事項

平成26年度英語教育強化拠点事業指定校の先行研究の分析・検証及び本市における中学年における活動型授業・高学年における教科型授業の年間指導計画・評価計画の作成及び授業における検討・検証

②使用する教材及び開発する教材

- ・アルファベット文字及び単語を認識させる教材の開発
- ・アルファベット文字の「読む」「書く」の定着を図るワークシートの開発
- ・フォニックスを活用した授業プランの検討
- ・チャンツ、英語の歌を活用した学習ツールの作成
- ・英語の絵本を活用した学習指導案の作成
- ・文構造への気づきを導く教材の開発
- ・「Hi, friends!」の活用
- ・「Hi, friends!Plus」の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：活動型・教科型授業の教育課程編成及び実施
- ・第一年次は移行期のため、第3学年、第4学年及び第5学年を「外国語活動型」、第6学年を「教科型」とし、年間を通じて第3学年、第4学年及び第5学年を週1コマ(35時間)、第6学年を週1コマに年間15時間を加えた50時間程度の時数設定で授業を実践する。
- ・中学年においては、現行の外国語活動を踏まえ、JETを活用して英語の音声に慣れ親しむ活動(単語の発音、歌やゲームを用いたアクティビティなど)を、発達段階に配慮して実施する。
- ・小学校には英語教育支援員を配置し、5・6年生の英語に関する年間全50時間の授業支援を行い、児童の興味・関心及び技能面の向上に資する。また、授業だけでなく、英語教育支援員との打合せや改善案の検討、教材作成を行うための時間を確保するために、100時間の追加配置を活用し、具体的な授業改善を図る。
- ・高学年においては、中学年で身に付けた「聞く」「話す」の内容に基づき、「読む」「書く」の活動を導入する。
- ・公開研究授業を実施し、年間指導計画の見直し・改善、適切な評価方法及び学習到達目標一覧の検討を行う。

④小・中・高等学校の連携

- ・連携する小学校間で分科会を立ち上げ、中学校、高等学校教諭を交えた日常的な授業公開及び参観、授業後の意見交換会を実施
- ・連携する中・高等学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標(CAN-DOリスト)の検討

- ・経年比較のための基礎資料用各種データの収集

(2) 第二年次 (H28年度)

①研究事項

第一年次の実践を踏まえ、研究授業を通じた授業改善、年間指導計画・評価計画等の見直し・改善及び研究成果の検証

②使用する教材及び開発する教材

- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用
- ・「Hi, friends!」の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：活動型・教科型授業の教育課程の評価検証及び改善
- ・第一年次に実施・修正した年間指導計画に基づき、年間を通じて第3学年と第4学年を週1コマ（35時間）、第5学年と第6学年を週2コマ（70時間）の時数設定で授業を実践、年間指導計画の見直し・改善及び適切な評価方法の検討を行う。
- ・第一年次に実施した中学年・高学年のそれぞれの授業における児童の変容に基づき、指導方法、指導内容の見直しを行う。

④小・中・高等学校の連携

- ・連携する中学校・高等学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・効果的なティーム・ティーチングに係る実践研究
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標（CAN-DOリスト）の作成・活用
- ・経年比較のための基礎資料用各種データの収集、分析、評価
- ・PDCAサイクルに基づく課題解決（指導計画等の修正・改善）

(3) 第三年次 (H29年度)

①研究事項

第一・第二年次の授業実践を踏まえ、研究授業による授業改善、年間指導計画・評価計画等の見直し・改善及び研究成果の検証

②使用する教材及び開発する教材

- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用
- ・「Hi, friends!」の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：活動型・教科型授業の教育課程及び教材活用の評価検証と改善
- ・第一・二年次に実施・修正した年間指導計画に基づき、第3学年と第4学年を「外国語活動型」、第5学年と第6学年を「教科型」とし、年間を通じて第3学年と第4学年を週1コマ（35時間）、第5学年と第6学年を週2コマ（70時間）の時数設定で授業を実施する。
- ・年間8回を公開研究授業として実施し、年間指導計画の見直し・改善及び適切な評価方法の検討を行う。

④小・中・高等学校の連携

- ・連携する中学校・高等学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・効果的なティーム・ティーチングに係る実践研究
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議

- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の修正・活用
- ・経年比較のための基礎資料用各種データの収集、分析、評価
- ・P D C A サイクルに基づく課題解決（指導計画等の修正・改善）

2. 中学校

(1) 第一年次（H 2 7 年度）

①研究事項

<習熟度別指導の確立及び「国際科（仮称）」の創設>

三年間の研究を有効に行うための基本的な体制を構築するための年次と捉え、週 4 時間の英語授業のほか、平成 2 8 年度から週 1 時間の独自の教科「国際科」を設定するための年間指導計画及び教育課程を編成する。また、習熟度別の授業を三段階で編成する。

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書「TOTAL ENGLISH」（学校図書）の活用
- ・English for Academic Purposes（学問的目的の英語）を身に付けるための各学年の学習状況を踏まえた教材の開発
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：習熟度別授業の実施及び効果検証
- ・平成 2 8 年度に全学年で新教科「国際科」（週 1 時間）を設置するための、教育課程及び指導計画作成（週 1 時間）
- ・東京方式少人数・習熟度別指導ガイドライン《中学校 英語》に基づいた授業の実施（週 4 時間）
- ・学級編制は 3 段階の習熟度別授業（基礎、定着、応用）を採用する。学級編制に当たっては、希望調査と学力診断テストを実施し、総合的に判定する。

<基礎クラス>

- ・小学校外国語活動の復習（基本的な表現による「聞く」「話す」活動）
- ・小学校教科型英語の復習（アルファベットの復習ほか）

<定着クラス>

- ・小学校教科型英語の確認（既習語彙、表現、文法事項を用いた言語活動）
- ・場面設定型の言語活動の実施

<応用クラス>

- ・発展的言語活動（様々な話題についての内容理解に基づく表現、情報交換等）
- ・自己表現活動（自らの考えや気持ちを伝え合う）
- ・English for Academic Purposes（論文、討論、プレゼンテーション）の基礎学習

④小・中・高等学校の連携

- ・東京都教育委員会主催の外国語科教員海外派遣研修修了者による研究授業及び協議の実施
- ・連携する小・高等学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有

- ・一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の検討
- ・経年比較のための基礎資料用各種データの収集

(2) 第二年次（H28年度）

①研究事項

「国際科」の実施及び研究授業による授業改善、年間指導計画・評価計画等の見直しと研究成果の公表

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書「TOTAL ENGLISH」（学校図書）の活用
- ・English for Academic Purposes（学問的目的の英語）を身に付けるための各学年の学習状況を踏まえた教材の開発
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：「国際科」授業の指導計画の改善
- ・第一年次に実施・修正した習熟度別授業と「国際科」の年間指導計画に基づく英語に関わる授業の実施（週5時間）
- ・年間指導計画の見直し・改善、適切な評価方法、学習到達目標一覧の検討

④小・中・高等学校の連携

- ・東京都教育委員会主催の外国語科教員海外派遣研修修了者による研究授業及び協議の実施
- ・連携する小・高等学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の修正・活用
- ・経年比較のための基礎資料用各種データの収集、分析、評価
- ・効果的なティーム・ティーチングに係る実践研究
- ・PDCAサイクルに基づく課題解決（指導計画等の修正・改善）

(3) 第三年次（H29年度）

①研究事項

提案授業による授業改善、年間指導計画・評価計画等の見直しと研究成果の公表

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書「TOTAL ENGLISH」（学校図書）の活用
- ・English for Academic Purposes（学問的目的の英語）を身に付けるための各学年の学習状況を踏まえた教材の活用
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：「国際科」授業の指導計画及び評価の改善
- ・第一・第二年次に実施・修正した習熟度別授業及び「国際科」年間指導計画に基づく授業の実施
- ・公開授業の実施（年間8回）
- ・年間指導計画の見直し・改善、適切な評価方法及び学習到達目標一覧の活用・検証

④小・中・高等学校の連携

- ・東京都教育委員会主催の外国語科教員海外派遣研修修了者による研究授業及び協議の実施

- ・連携する小・高等学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の修正・活用
- ・経年比較のための基礎資料用各種データの収集、分析、評価
- ・効果的なティーム・ティーチングに係る実践研究
- ・P D C Aサイクルに基づく課題解決（指導計画等の修正・改善）

3. 高等学校

(1) 第一年次（H27年度）

①研究事項

小学校外国語活動開始学年の早期化に伴う、中・高等学校における教育課程の検討

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書「Hello there English Conversation」（東京書籍）
- ・4技能を統合的に活用できる力の向上を目指した独自教材の開発

③実践内容の概要

- ・重点項目：小・中・高等学校を通じて一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の検討（都立高校学力スタンダードに基づく達成目標の検討）
- ・4技能を統合的に活用した高度な言語活動（発表、討論、交渉）を行うための効果的な指導方法の研究

④小・中・高等学校の連携

- ・東京都教育委員会主催の外国語科教員海外派遣研修修了者による研究授業及び研究協議の実施、指導方法研究
- ・連携する小・中学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議（教育課程編成への参画）
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の作成と評価方法改善の検討
- ・J E Tを活用した効果的なティーム・ティーチングに係る実践研究

(2) 第二年次（H28年度）

①研究事項

小学校外国語活動開始学年の早期化に伴う、中・高等学校における教育課程の検討、言語活動の高度化に向けた指導方法及び教材の研究開発

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書「Hello there English Conversation」（東京書籍）
- ・4技能を統合的に活用できる力の向上を目指した独自教材の開発
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：小・中・高等学校を通じて一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の検証（指導計画への反映と評価）
- ・4技能を統合的に活用した高度な言語活動（発表、討論、交渉）を行うための効果的な指導方法の研究と検証

④小・中・高等学校の連携

- ・東京都教育委員会主催の外国語科教員海外派遣研修修了者による研究授業及び研究協議の実施、指導方法研究
- ・連携する小・中学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議（教育課程編成への参画）
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の作成と評価方法改善の検討
- ・J E Tを活用した効果的なティーム・ティーチングに係る実践研究成果の普及

(3) 第三年次（H 2 9年度）

①研究事項

小・中・高等学校を通じた学習到達目標（CAN-DO リスト）に基づく指導と評価の改善

②使用する教材及び開発する教材

- ・検定教科書「Hello there English Conversation」（東京書籍）
- ・4技能を統合的に活用できる力の向上を目指した独自教材の活用
- ・日本や東京の魅力を発信する都独自教材の活用

③実践内容の概要

- ・重点項目：小・中・高等学校を通じて一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の検証及び評価計画の改善
- ・4技能を統合的に活用した高度な言語活動（発表、討論、交渉）を行うための効果的な指導方法の改善

④小・中・高等学校の連携

- ・東京都教育委員会主催の外国語科教員海外派遣研修修了者による研究授業及び研究協議の実施、指導方法研究
- ・連携する小・中学校と相互の授業参観・研究協議の実施
- ・指導方法、評価方法の修正・改善、指導力向上に係る協議（教育課程編成への参画と分析、評価の実施）
- ・授業実践報告及び計画の進捗状況についての情報共有
- ・一貫した学習到達目標（CAN-DO リスト）の作成と評価方法改善の検討
- ・J E Tを活用した効果的なティーム・ティーチングに係る実践研究成果の普及

○平成27年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

小学校では、4月の英語教育強化運営委員会を受けて、英語科や中学年における外国語活動実施に向けた検討を重ねてきた。高学年については、6年生が既存の35時間に加えて15時間を追加し、「Hi, friends!」をベースにした50時間の指導を行っている。具体的には、総合的な学習の時間と外国語活動を教科横断的に関連させた単元を作成したり、授業の中にアルファベットやそれを用いた英単語などを「書く」活動を取り入れたりしてきた。

中学年については、武蔵村山市英語活動カリキュラム作成委員会が平成23年度に作成した20時間のモデルカリキュラムを参考にして、指導計画の見直しと追加される15時間の内容の検討を行っている。新たな単元の設定も視野に入れながら、既存の単元の内容を充実させる方向で、各単元の時間数を増やししながら指導している。

指導計画以外では、年度途中から英語教育支援員の配置に100時間の追加が認められたこと、中学校に配置された本事業のための英語科加配教諭の小学校への派遣が本格化したことを関連づけ、各学年の授業計画を検討する打合せの時間を設定した。学年、支援員、中学校英語科教諭が集まって授業に関して話し合う時間が設定されたことは、一年次の最も大きな成果の一つである。二年次は全ての学年で授業時間数が増えるため、授業だけでも英語教育支援員の配置時間の増加が必須である。今年度の成果を二年次につなげるためには、授業だけでなく、打合せ時間の設定を更に充実させることが不可欠である。

中学校においては、年間2回以上、海外派遣研修受講教員による研究授業及び研究協議に取り組んだ。また、全校中学校生徒を対象にJETと連携し、オールイングリッシュ講座を実施した。さらに、国際科の内容を検討し、年間計画の作成に当たっている。

高等学校においては、連携する小・中学校と相互の授業参観及びそれに伴う研究協議を実施し、研究事項である「小学校外国語活動開始学年の早期化に伴う、中・高等学校における教育課程の検討」を推進している。本校独自の学習到達目標（CAN-DO リスト）を作成するとともに、都立高校学力スタンダードに基づく達成目標の検討を実施した。また、アクティブラーニングを推奨し、4技能を統合的に活用した高度な言語活動（発表、討論、交渉）を行うための効果的な指導方法の研究も実施中である。

【課題】

- 小学校における授業時数の検討及び独自教材の開発。
- 国際科の年間計画を実施計画、学習指導案の作成につなげていく。
- 4技能を統合的に活用できる力の向上を目指した独自教材の開発は、暗礁に乗り上げている。2技能若しくは3技能を統合的に活用することは可能である。今後は、更に研究を深め、4技能全てを統合的に活用できる力の向上を目指した教材の開発を模索していく。

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

1. 小学校

(1) 第一年次（H27年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 児童・保護者アンケート調査（5月、10月、2月：第3学年から第6学年）
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月：第5学年、第6学年）
- ④ 学力調査（3月：第5学年、第6学年）
- ⑤ パフォーマンス評価（3月：第3学年から第6学年※ただし第3学年、第4学年は文章表記）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、開発教材の改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する中・高等学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への

系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

(2) 第二年次 (H28年度)

- ① 自己評価 (各学期末) 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 児童・保護者アンケート調査 (5月、10月、2月: 第3学年から第6学年)
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査 (7月、2月: 第5学年、第6学年)
- ④ 学力調査 (5月、10月、3月: 第5学年、第6学年)
- ⑤ パフォーマンス評価 (5月、10月、3月: 第3学年から第6学年※ただし第3学年、第4学年は文章表記)
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価 (9月、1月) 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、開発教材の改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価 (7月、11月) 連携する中・高等学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

※評価に当たっては成果と課題を明確に把握するため経年比較し、PDCAサイクルに従って課題の解決を図り、次年度に引き継ぐ。

(3) 第三年次 (H29年度)

- ① 自己評価 (各学期末) 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 児童・保護者アンケート調査 (5月、10月、2月: 第3学年から第6学年)
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査 (7月、2月)
- ④ 学力調査 (5月、10月、3月: 第5学年、第6学年)
- ⑤ パフォーマンス評価 (5月、10月、3月: 第3学年から第6学年※ただし第3学年、第4学年は文章表記)
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価 (9月、1月) 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、開発教材の改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価 (7月、11月) 連携する中・高等学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

※評価に当たっては成果と課題を明確に把握するため経年比較し、PDCAサイクルに従って課題の解決を図り、次年度に引き継ぐ。

2. 中学校

*評価の対象は全学年

(1) 第一年次 (H27年度)

- ① 自己評価 (各学期末) 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 生徒・保護者アンケート調査 (5月、10月、2月)
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査 (7月、2月)
- ④ 学力調査 (3月)

- ⑤ パフォーマンス評価（3月）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する小・高等学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

(2) 第二年次（H28年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 生徒・保護者アンケート調査（5月、10月、2月）
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月）
- ④ 学力調査（5月、10月、3月）
- ⑤ パフォーマンス評価（5月、10月、3月）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する小・高等学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

※評価にあたっては成果と課題を明確に把握するため経年比較し、PDCAサイクルに従って課題の解決を図り、次年度に引き継ぐ。

(3) 第三年次（H29年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 生徒・保護者アンケート調査（5月、10月、2月）
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月）
- ④ 学力調査（5月、10月、3月）
- ⑤ パフォーマンス評価（5月、10月、3月）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する小・高等学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

※評価に当たっては成果と課題を明確に把握するため経年比較し、PDCAサイクルに従って課題の解決を図り、次年度に引き継ぐ。

3. 高等学校

*評価の対象は全学年

(1) 第一年次（H27年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 生徒・保護者アンケート調査（5月、10月、2月）

- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月）
- ④ 学力調査（3月）
- ⑤ パフォーマンス評価（3月）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する小・中学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

(2) 第二年次（H28年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期に行う。
- ② 生徒・保護者アンケート調査（5月、10月、2月）
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月）
- ④ 学力調査（5月、10月、3月）
- ⑤ パフォーマンス評価（5月、10月、3月）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する小・中学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

※評価に当たっては成果と課題を明確に把握するため経年比較し、PDCAサイクルに従って課題の解決を図り、次年度に引き継ぐ。

(3) 第三年次（H29年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期に行う。
- ② 生徒・保護者アンケート調査（5月、10月、2月）
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月）
- ④ 学力調査（5月、10月、3月）
- ⑤ パフォーマンス評価（5月、10月、3月）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、改善の具体策提示等
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する小・中学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。

※評価に当たっては成果と課題を明確に把握するため経年比較し、PDCAサイクルに従って課題の解決を図り、次年度に引き継ぐ。

○平成27年度の進捗状況・課題

1. 小学校

(1) 第一年次（H27年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
→9月から担任、英語教育支援員、中学校英語教諭による打合せを開始した。項目ごとの評価については、年度末にまとまる予定だが、毎回の授業や、単元を通した活動を多角的に振り返り、授業改善につなげるための授業評価や、自己評価を毎回行うことができている。
- ② 児童・保護者アンケート調査（5月、10月、2月：第3学年から第6学年）
→6月に第1回、12月に第2回の児童アンケートを行った。保護者アンケートについては、質問項目の検討は行っているが、結論には至っていない。年度末には保護者アンケートを行えるようにする。
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月：第5学年、第6学年）
→研究授業や、普段の授業を通して、児童の英語の語彙不足という実態を感じている。しかし、今年度から英語を書く活動を導入したばかりなので、児童の知識や理解を図る適切な方法を具体的な調査方法を検討中。
- ④ 学力調査（3月：第5学年、第6学年）
→小学校ごとに行うべきものなのか、共通のものを行うべきなのかを検討している段階であったり、何を問うことが学力を図ることになるのかを検討している段階であったりするが、今年度末に実施できるかどうかは不透明。
- ⑤ パフォーマンス評価（3月：第3学年から第6学年※ただし第3学年、第4学年は文章表記）
→先行事例を集めたいが、何をどのような観点で評価すべきかを検討している段階。
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、開発教材の改善の具体策提示等
→11月に研究授業を行った。1月にも研究授業を行うが、2つの研究授業を通して、外国語活動や英語科の学習のベースとなる部分を検討し、来年度に向けた提案を行う。
- ⑦ 連携する小・中・高等学校による相互評価（7月、11月） 連携する中・高等学校と協議の場をもち、相互に課題や改善点等の検討を行い、英語教育の小・中・高等学校への系統性の視点から指導方法や評価方法の修正や改善を行う。
→中学校教諭との連携は行えるようになったが、小小、小高の連携の仕方について模索している段階である。小小については、28年度からの具体的な連携プランが固まりつつあるため、小高の連携プランを立てることが年度末までの課題である。

2. 中学校

第一年次（H27年度）

- ① 自己評価（各学期末） 研究計画に合わせて年度当初に年間評価計画を作成し、具体的な項目ごとの目標に対する各指導者の自己評価を定期的に行う。
- ② 生徒・保護者アンケート調査（5月、10月、2月）
- ③ 言語や文化に関する知識・理解調査（7月、2月）
- ④ 学力調査（3月）
- ⑤ パフォーマンス評価（3月）
- ⑥ 研究授業及び研究協議会を通しての授業評価（9月、1月） 研究授業による検証、成果の確認、課題の指摘、改善の具体策提示等

(2) 運営指導委員会

①活動計画

- 年間3回（7月・12月・2月）運営指導委員会を開催し、各校の研究の進捗状況の報告を受けるとともに、各校の交流計画の調整及び研究内容に関する指導・助言を行う。
- 各校の研究授業を運営指導委員が参観し、使用教材・指導方法・評価等に指導・助言を行う。
- 11月の運営指導委員会には、各校の管理職及び主幹教諭（研究担当）を含めた拡大委員会を開催し、研究の進捗状況の確認及び今後の研究内容に関する意見交換を行う。
- 運営指導委員会の内容を東京都教育庁指導部長に報告し、適宜指導・助言を仰ぐ。
- 平成27年度の進捗状況・課題
- ・第1回運営指導委員会を6月に開催した。都教育庁指導部より都の取組や本事業のねらい及び研究の方向性について、学識経験者より次期学習指導要領及び小学校の英語教育への期待等について助言をもらい、武蔵村山市の取組の方向性等について意見交換を行った。
 - ・第2回については12月に開催し、文部科学省教科調査官より、次期学習指導要領作成に向けた取組や現状について講演をしていただいた。なお、この回については、本事業の取組について市内小中学校及び都立上水高等学校教員にも広く周知するため、全校種の教員も参加できるように公開運営指導委員会とし拡大して実施した。英語科新設に向けて、小中連携の重要性、授業時数の確保、モジュールの扱い、小学校における4領域の考え方等を学び、共有できた。第3回については2月末から3月上旬を予定しており、今年度の取組及び成果と課題を報告する。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画及び評価計画の立案 ・研究組織作り ・四校合同の研究主任会実施 ・4月21日 小中高管理職、榎並部長 事業概要の共通理解 都立上水高校 ・4月30日 第1回英語教育強化研究推進委員会 三中 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「英語教育強化地域拠点事業について」 ・第1回児童・生徒・保護者アンケート実施 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回アンケート調査実施 結果分析 ・先進校研究授業参観 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校授業参観 ・6月2日 第1回 運営指導委員会 三中 ・6月16日 小中管理職 今後の進め方確認 三中 ・6月26日 第1回研究リーダー部会 三中 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回小・中・高等学校英語教育検証会議（仮称）開催 ・四校合同英語教育夏季研修会 ・7月15日 第2回英語教育強化研究推進委員会 三中 	運営指導委員会 開催
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査問題作成 ・研究授業指導案検討 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回英語研究授業実施（終了後研究協議会開催） ・中学校授業参観 ・9月7日 小中管理職、研究主任、三中英語科教員実務打合せ ・9月16日(水) 第2回研究リーダー部会 上水高校 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回児童・生徒・保護者アンケート実施 ・先進校研究授業参観 ・10月16日 第3回英語教育強化研究推進委員会 三中 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回アンケート調査結果分析 ・高等学校授業参観 ・第2回小・中・高等学校英語教育検証会議（仮称）開催 	拡大運営指導委 員会開催
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業指導案検討 ・12月1日(火) 文部科学省教科調査官招聘による授業参観及び拡大 運営指導委員会 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回英語研究授業実施 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回児童・生徒・保護者アンケート実施・結果分析 ・英語検定 Jr（第6学年） 	運営指導委員会 開催
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査実施・結果分析（小学校第5．第6学年・中学校第1学年） ・本年度の研究のまとめ＜成果と課題＞ 	